

みやま共同作業所 通信

みやま共同作業所広報紙

第9号

2008.3.28

発行

南丹市社会福祉協議会

美山支所 みやま共同作業所

〒601-0751 南丹市美山町島 町民センター内

TEL.0771-75-1660 FAX.0771-75-0829

もちつき大会で交流

20年2月13日



2月のオープンランチはもちつき大会を行いました。あいにくの雪降りのなか、“育成苑” “しゃくなげ共同作業所”からも参加していただき、総勢50名ほどの参加者に。お餅つきの後はボランティアさんによるレクリエーションや、カラオケで盛り上りました。

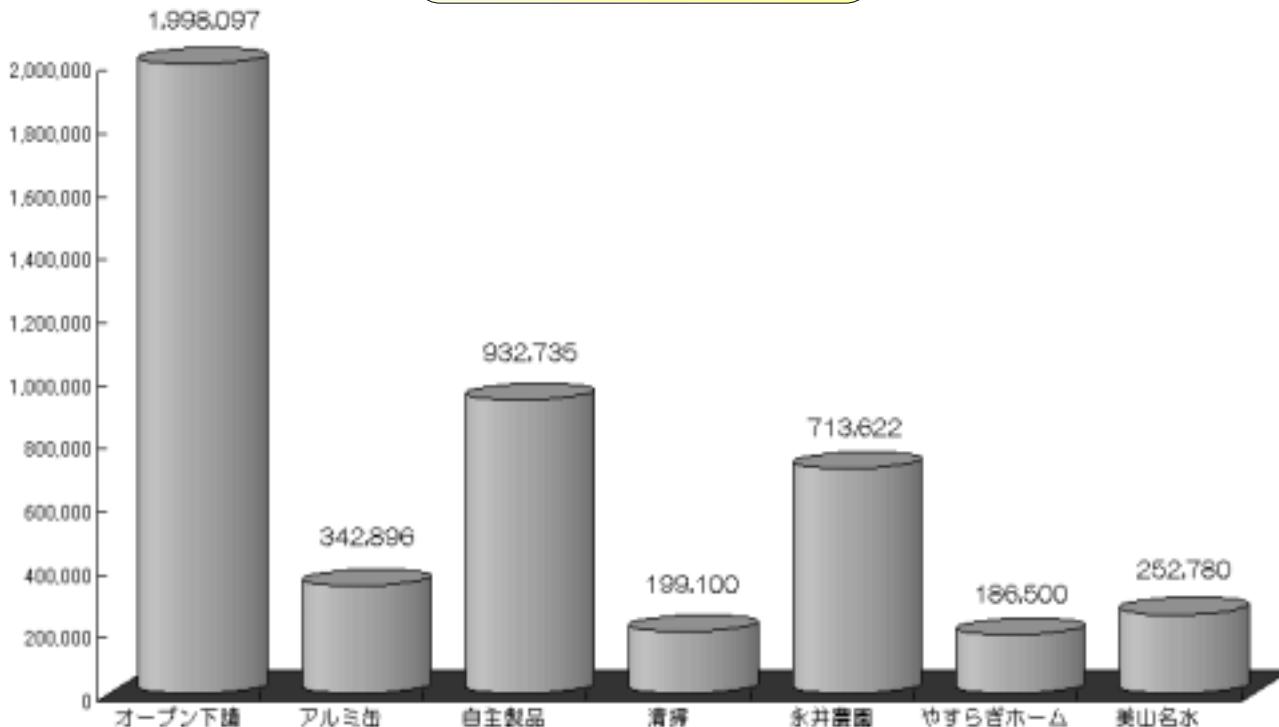


みやま共同作業所19年度事業報告

2008.3.28 現在

授産事業も毎年順調に伸びており、今年度はこれだけの成果を収めることができました。利用者の皆さんの工賃は年間平均して一時間あたり250円程度支払うことができています。これも、地域の色々な事業者や行政のお陰だと感じています。ありがとうございました。

授産事業 19年4月～20年2月



社会体験事業

- 6月5～6日 淡路島一泊旅行
- 7月7日 手をつなぐ運動会参加
- 8月1日 小浜花火大会鑑賞
- 9月9日 ピカソ展鑑賞
- 11月 9日 美山っ子音楽フェスティバル
- 1月11日 新年会
- 3月 2日 映画鑑賞
「筆子その愛～天使のピアノ」

利用者企画事業

- 7月6日 夏の企画 買い物 (アルプラザ)
- 10月3日 秋の企画 映画鑑賞
- (予定)4月17日 春の企画 清水寺

その他の事業

教養の時間 (絵画) 11回
(合唱) 5回
(太鼓) 2回
(習字) 3回

- 5月20日 障害者ふれあい広場参加
- 9月16日 障害者陸上競技大会参加
- 9月26日 障害者就職面接会参加
- 10月28日 育成苑まつり出店
- 11月 3日 ふるさとまつり出店
- 11月 9日 精神障害者スポーツ大会参加
- 1月18日 とっておきの芸術祭鑑賞
- 3月28日 社会貢献事業 (雑巾寄贈)

地域交流事業

- オープンランチ(毎月) 12日間
- 7月11日 やすらぎホーム地域交流会合唱の発表
- 8月28日 こぶしの里慰問
- 9月22日 やすらぎふれあい夏祭り合唱の発表
- 11月12日 宮島小学校交流会
- 3月14～24日 合同美術展

共同作業所ひよしとの合併に向けて

みやま共同作業所は、障害者自立支援法の施行という大きな流れの中で新しい歩みを始めようとしています。それは、3月28日の理事会での承認を受け、共同作業所ひよしと合併することです。

共同作業所ひよしでは、平成4年から15年間の長い間、障害者の「この地で当たり前に働き、当たり前に暮らしたい」と言う思いに答えるべく活動してこられました。しかし、新しい制度の中では、経営基盤が厳しく、みやま共同作業所との合併を選ばれました。

障害者自立支援法は施設再編の中で施設のあり方に大きな転換を求めていました。その役割や責任を明確にすることなどです。小さな施設には小さな施設のアットホームな良い点があるのですが、役割を明確にし個別のニーズに応える点では難しい課題もあります。

ともあれ、合併をひとつのはねにして、飛躍をしていきたいと思います。それぞれの歩んできた成果は、十分に生かされるべきです。それぞれの良いところを見失うことなく新しい出発にしたいと思います。皆様の応援をよろしくお願ひいたします。詳しくは4月に合併報告をいたします。

京都とておきの芸術祭

佳作入賞
おめでとう



【京都とておきの芸術祭】に出展した作業所の皆さん的作品が、3年ぶりに入賞しました。昨年の2月から8月にかけて取り組んだ「絵本」は、芸術祭スタッフから『圧巻でした』



と言われるほどの大作に仕上りました。賞をもらうことが全てではないと分かっているながら、やはり入賞は嬉しいものですね。

とておきの芸術祭とは・・・

京都の歴史と文化を基盤として、障害者の芸術文化活動の可能性を切り拓き、障害者の社会参加の促進を図ることを目的として、平成7年から開催されているものです。

オープンランチ

12月
クリームシチュー



1月
皿うどん



2月
もちつき大会



3月
ちらし寿司



日時 / 毎月第2水曜日
12:00~13:00

場所 / 町民センター ホール
参加費 / 250円

どなたでも参加できます。お気軽にどうぞ！

あんなこと こんなこと

平成20年 1月～3月



1月11日
新年会



1月18日
とっておきの芸術祭



1月22日
教養の時間【習字】



2月2～3日
南丹工芸文化祭



2月26日～
教養の時間【絵画】



3月17～24日
合同美術展

施設長雑感

竹内 晶

先日、子供の卒業日帰り旅行ということで、スキーに行ってきました。車で一時間四〇分～五〇分でしょうか。こんな近くに、一面白銀の別世界。初体験だったのでスクールに入りました。一日滑っていると、どうやら初級コースは楽しく滑れるようになっていました。われながら「やつた！」の感です。「誰もが、こんな楽しみをあじわってみたいのだろうつな。」いろんな工夫で障害者の人たちも、したいことが出来るよう支援したいとあらためて思いました。

障害者の自立支援法が出来て、「施設から地域へ」という支援のあり方は、より明確になってきました。地域で当たり前に暮らす。それは、支援する側とされる側でなく、共に地域の一端を担う仲間となることだと思います。どんなに多くのことが出来ても、どんなに多くのことが出来なくても、地域の一員として、光り合ったいものです。「この子らを世の光に」彼らを援助される側に固定してはいけないのでしょう。

このごろ思うこと